



# 本だな

無断転載禁止



## 親子遊び 定番の数々

### 『ゴリラのおとうちゃん』

ゴリラのおとうちゃんと子どもが木かげでからだ遊びします。

「なあ おとうちゃん あそんでーや」なんや またかいな。関西弁が、ほのぼのとした味わいです。「すべりだい」「ひこ

うき」「たかい たかい」。あ、これわが家でもやっていたなあ

—— そんな親子遊びの定番の数々が、ほほ笑みを誘います。(三浦太郎・作、こぐま社、1200円)



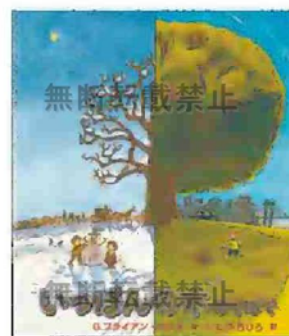
## 生の営み 雄大に描く

### 『いっぽんの木のそばで』

丘の上で、男の子が埋めたどんぐりが芽を出し、オークの木が現れます。木は枝を広げながら育ち、周りでは街が発展していきます。やがて木は200歳に

ある嵐の日、木は雷に二つに裂かれ、根元から切り倒されま

すが……。生の営みを、雄大なスケールで描きます。(G.ブライアン・カラス作、いしづちひろ訳、BL出版、1700円)



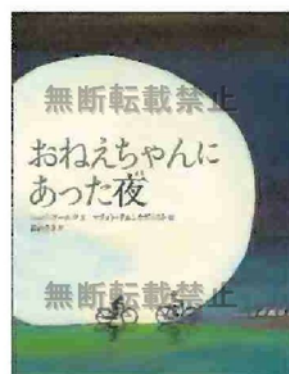
## 死んだ姉と結んだ絆

### 『おねえちゃんにあった夜』

少年の誕生日前に死んだ「おねえちゃん」。ある日、少年の耳に姉の声が聞こえ、その夜、姿を現した姉と自転車で出かけます。公園で船に乗り込む姉

を見て、「ずっと感じていた大きな悲しみ」に襲われる少年。姉の死を受け入れ、不思議な絆を結びます。(シェフ・アールツ文、マリット・テルンク

ヴィスト絵、長山さき訳、徳間書店、1700円)



## 差別的隣人との交流

### 『おいぼれミック』 英国中

部の都市に住むインド系移民一家と、人種差別的な暴言を吐く隣人との関わりを描きます。一家の末っ子ハーヴェイは、隣人

ミックの言動にいら立ちながらも、窮地の彼を一度ならず助け……。少年のまっすぐな心が

人を動かす。異文化交流の実相をユーモアいっぱいに描き、読後感さわやか。(バリ・ライ著、岡本さゆり訳、あすなろ書

房、1200円)

